



# 猫派と犬派の性格の違い

**B班**

# 目的

---

猫派と犬派の性格の違い

➡昔から心理学の研究者が大規模調査をしてきた事案

➡猫と犬の性格には違いがあり、猫好きと犬好きは

それぞれ猫、犬の性格に似ていると一般に認知

➤猫好きと犬好きの性格の違いを分析。

# 猫と犬の性格に関するアンケート

## 概要

調査機関	株式会社クロス・マーケティング
調査方法	インターネットリサーチ
調査地域	日本全国
調査対象	20～69歳の男女
調査期間	2018年4月6日～4月9日
有効回答数	1,000サンプル

# 猫と犬の性格に関するイメージ

---

猫

気まぐれ、自由、わがまま

甘えん坊、人見知り、キレイ好き

犬

人懐こい、忠誠的、賢い

従順、元気・快活、甘えん坊

# 猫派と犬派の性格に関するアンケート

## 概要

調査機関	株式会社ベネッセグループ
調査方法	インターネットリサーチ
調査地域	日本全国
調査対象	アプリ「いぬのきもちねこのきもち」利用者
有効回答数	268サンプル

# 猫派と犬派の性格に関するイメージ

---

猫派：自由奔放

男：人当たりが良い、社交性が高い

女：寂しがり屋、独占欲が強い

犬派：前向き

男：社交性が高い、スキンシップ多め

女：周りの人に尽くす、面倒見が良い

# 先行研究

---

- ・ 猫好きの方が、犬好きよりも開放性が高く、調和性が低い
- ・ 犬好きが猫好きより他者との関わりを重視する傾向がある
- ・ 犬は猫より人懐こく、人と積極的に関わろうとすることから、人は自分のパーソナリティに近い動物を好む

(齋藤ほか、2011)

→ 改善点：調査年度、「他者との関わり」とは？

# 先行研究

---

- ・ 調査対象は大学生
- ・ 猫好きの方が自律性が高い
- ・ 犬好きの方が他者の要求や期待に沿い、社会的評価が高い傾向がある。

(田島、2017)

➔ **改善点：調査対象**

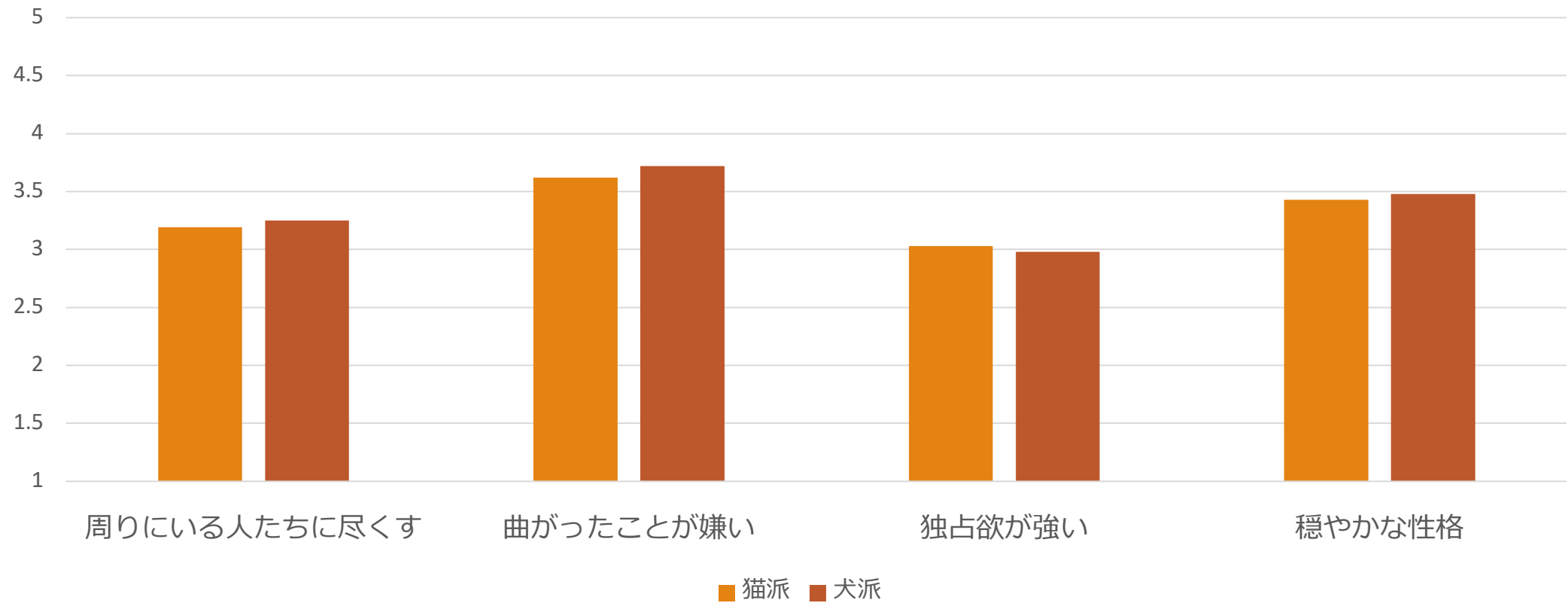


# 統計分析

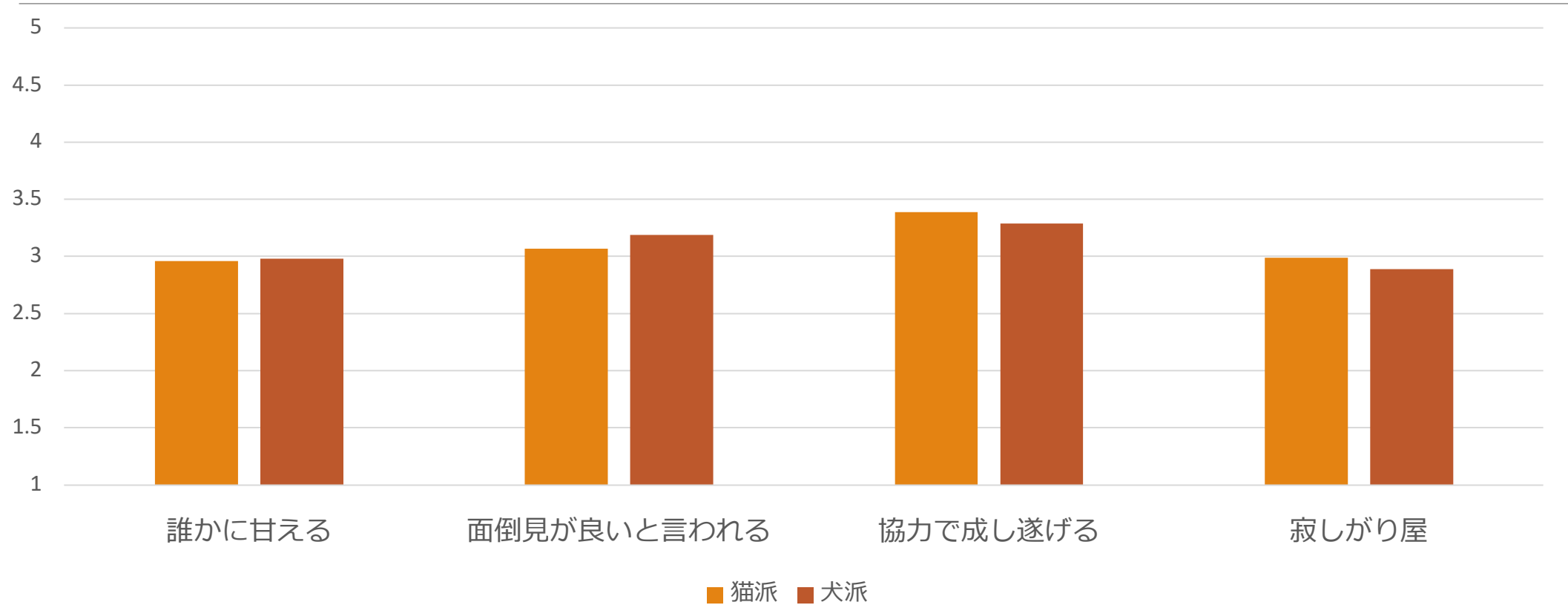
# 記述統計量

	平均	標準偏差	最小値	最大値		平均	標準偏差	最小値	最大値
Gender	1.50	0.50	1.00	2.00	B1_3	3.44	0.96	1.00	5.00
Age	49.97	16.20	18.00	79.00	B1_4	3.69	0.91	1.00	5.00
Pref	20.77	11.73	1.00	47.00	B1_5	3.11	0.99	1.00	5.00
F1	4.57	11.30	1.00	99.00	B1_6	3.35	0.95	1.00	5.00
F2	5.23	10.41	1.00	99.00	B1_7	2.96	1.10	1.00	5.00
F3	4.80	16.19	1.00	99.00	B1_8	2.97	1.07	1.00	5.00
F4	9.39	21.75	1.00	99.00	B1_9	2.93	1.04	1.00	5.00
F5	20.15	32.88	1.00	99.00	B1_10	2.99	1.05	1.00	5.00
Trap	2.27	0.70	1.00	5.00	B1_11	2.90	1.09	1.00	5.00
B1_1	3.22	0.98	1.00	5.00	B1_12	2.75	1.20	1.00	5.00
B1_2	3.14	1.07	1.00	5.00	B2	1.62	0.49	1.00	2.00

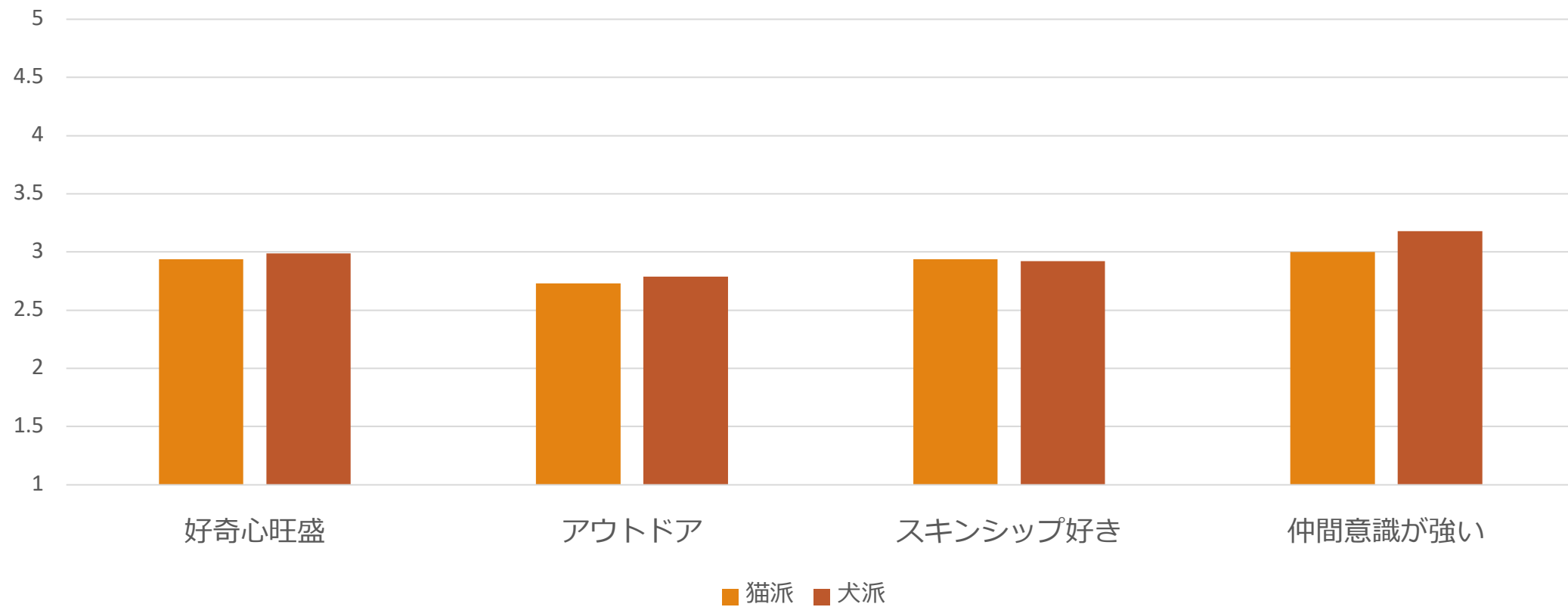
# データ



# データ



# データ



# 結果

---

仮説とは違い、猫派と犬派の性格の違いは  
**ほとんどなかった。**

だが、設問の際、はじめに「犬派か猫派か」の  
質問を配置すると、違う結果が導出される可能性  
がある。

# 引用

---

- ・ イヌ好きとネコ好きのパーソナリティの特徴ーパーソナリティの多面性とペットのパーソナリティの類似性について（田島、2017）
- ・ ネコ好きとイヌ好きでパーソナリティは異なるか（2）（齋藤ほか、2011）
- ・ [https://blog.counselor.or.jp/work\\_technique/f917](https://blog.counselor.or.jp/work_technique/f917)  
(最終アクセス / 2023.1.15)
- ・ <https://dog.benesse.ne.jp/withdog/content/?id=22478>  
(最終アクセス / 2023.1.15)